

「外部指導者の把握と傾向」

～外部指導者制度の抱える課題について考える～

福岡県中学校体育連盟 研究部

豊前市立角田中学校教諭 村田かおり

〈提案趣旨〉

本県では、学校と地域の連携や生徒の競技力向上を目指して、平成11年度に外部指導者登録制度を開始した。平成12年度の登録者数は562名であったが、17年経過した現在、登録者数は約3倍の1,845名に増え、さまざまな課題を抱え始めている。今回、本制度についての現状を調査・分析し、今後の課題を掴みたいと考えている。

1 はじめに

○福岡県中学校体育連盟の組織と現状

福岡県中学校体育連盟は、昭和24年の設立から今年で67年目を迎え、福岡市（7区83校）、北九州市（7区73校）、筑後地区（15市町村80校）、筑豊地区（19市町村57校）、筑前地区（16市町村61校）、京築地区（7市町村21校）の6つの地区で構成している。

本連盟では、九州大会・全国大会の予選会となる

福岡県中学校総合体育大会（県総体）を本県の運動部活動生徒における最高大会と位置付けて開催している。大会の開催には、選手の輸送や引率・健康管理に配慮しながら、7月中旬までに地区大会を、7月28日～8月1日までの5日間の会期で県総体を開催している。

平成27年度の加盟校は375校（全生徒140,874名）、運動部活動の加入生徒数は82,124名で、加入率は約58%と決して高くない状況である。

指導には、学校の教員はもとより、平成11年度より県内全中学校の「教職員」以外の運動部活動指導者を登録する制度である「外部指導者登録制度」が正式に導入され、各学校と地域が連携して指導にあたる取り組みを実施している。外部指導者の数は年々増加し、全国の平均（※1）と比較しても、平成27年度は全国平均630人に対して本県は1,845人と大きく上回っている。（図1）

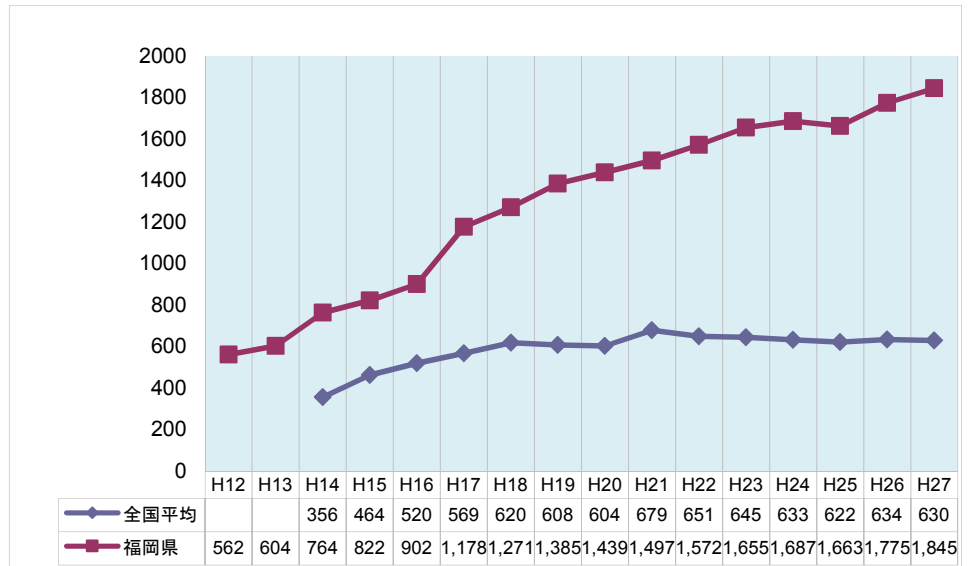


図1 外部指導者数の推移

※1 公益財団法人日本中学校体育連盟加盟校調査参照

3 結果

○外部指導者登録者数の推移

平成12年度から平成27年度までの外部指導者の登録者数を調査した。外部指導者登録制度が正式導入されてから3年目の平成13年度は604人であった登録者数が、平成27年度までの15年間で3倍以上の1,845人まで増加していることがわかった。特に、平成13年度から20年度にかけては、毎年大幅に増加している。

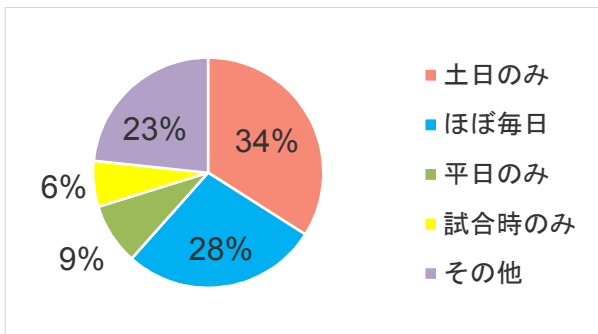
(表1)

種目別に見ても、バスケットボールやバレーボールなどの球技、剣道や空手道などの武道、専門的に指導できる教員が少ない新体操などの種目が、多く制度を活用していることがわかった。

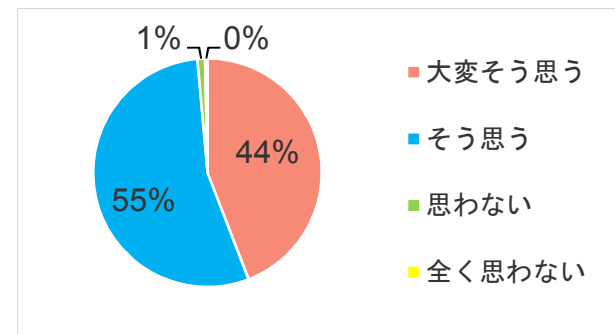
競技種目	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
陸上競技	15	16	19	28	36	35	37	31	35	41	45	45	47	52	49	63
水泳競技	4	6	4	8	5	14	16	21	16	21	30	38	54	54	64	75
サッカー	60	64	86	93	107	103	100	105	119	133	138	127	124	108	121	101
体操競技	43	44	53	42	41	44	52	69	59	65	71	67	73	84	90	97
新体操	27	21	36	42	35	65	66	81	85	81	90	96	93	109	128	138
卓球	32	38	48	52	58	76	86	104	99	103	108	104	111	107	117	110
剣道	54	45	63	76	92	106	105	113	128	126	136	137	148	143	151	189
柔道	16	16	22	31	39	49	54	72	86	94	117	101	103	93	125	122
ハンドボール	0	1	2	3	4	4	5	1	3	2	4	8	9	10	11	12
バレーボール	72	93	98	95	100	115	129	143	138	157	137	145	144	126	133	122
バスケットボール	96	91	117	124	130	166	166	190	195	182	200	223	208	202	208	190
軟式野球	64	72	83	86	86	113	122	128	129	141	135	138	109	113	93	113
ソフトテニス	33	61	81	79	97	107	110	127	139	138	136	144	146	144	140	148
バドミントン	18	16	26	33	36	40	39	46	56	62	68	87	87	85	87	107
ソフトボール	17	11	16	14	21	27	37	33	28	28	29	35	32	34	31	30
相撲	1	1	1	1	2	2	2	4	7	4	6	5	4	8	9	8
駅伝競走	6	6	2	2	1	1	1	2	3	4	5	7	11	8	5	6
スケート	0	0	1	8	3	5	13	9	11	14	16	10	12	12	17	17
スキー	0	0	0	1	1	2	2	0	0	0	0	2	2	1	0	1
空手道	0	0	4	4	6	104	124	106	100	97	95	108	130	133	158	150
テニス												24	37	33	33	40
その他	4	2	2	0	2	0	5	0	3	4	6	4	3	4	5	6
合計	562	604	764	822	902	1178	1271	1385	1439	1497	1572	1655	1687	1663	1775	1845

表1 種目別の外部指導者登録者数(人)

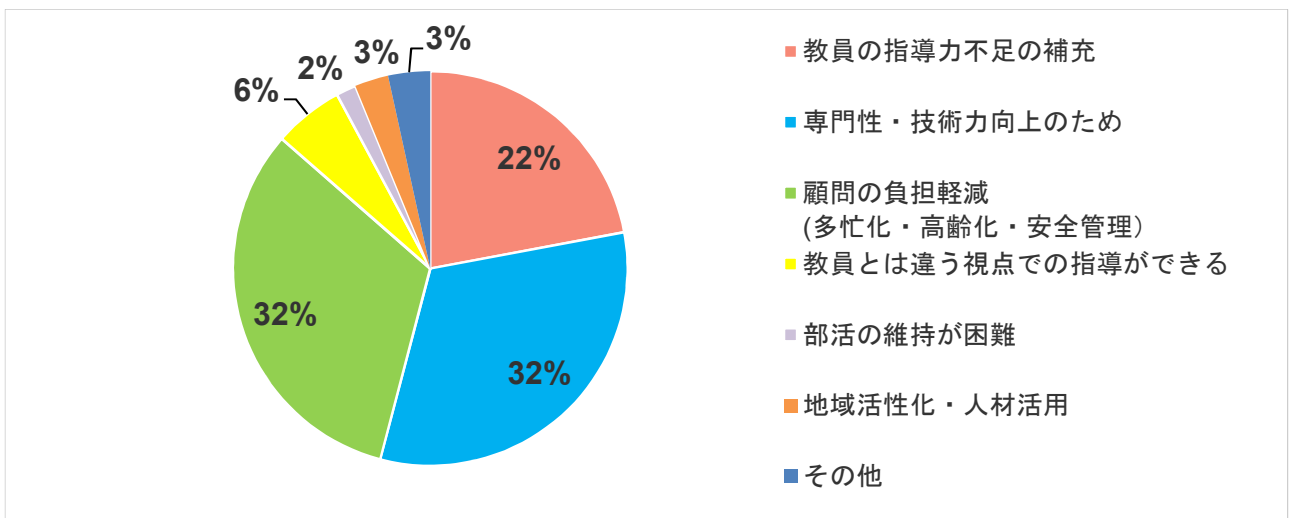
○指導頻度



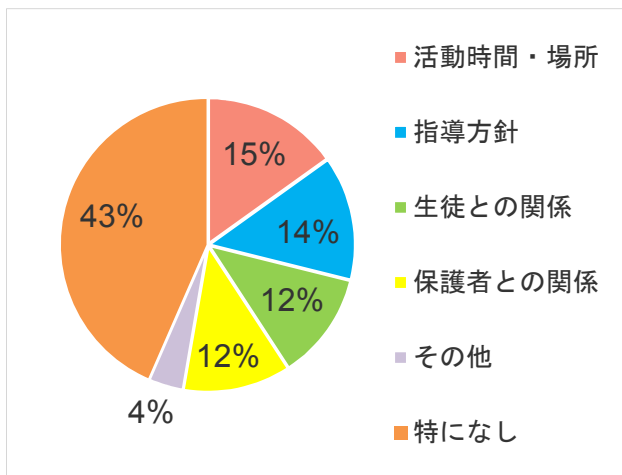
○外部指導者の必要性



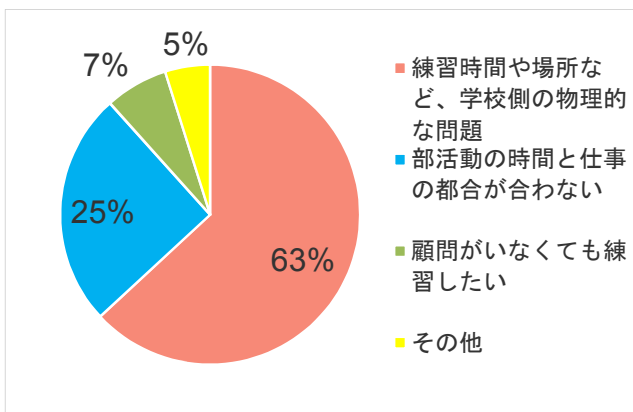
○外部指導者が必要だと思う理由



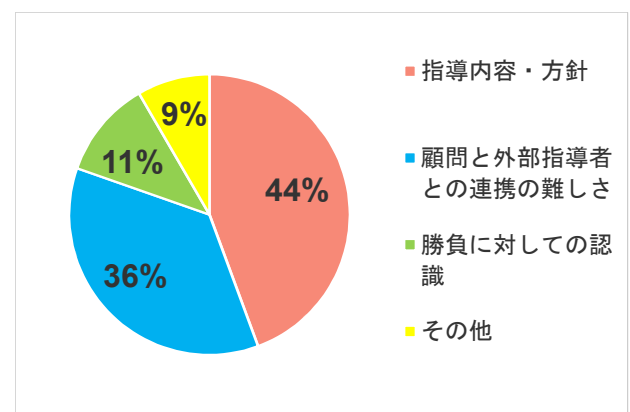
○外部指導者が抱えている課題



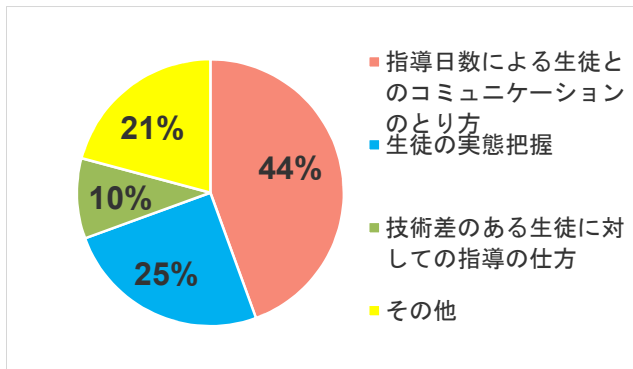
○活動時間・場所の課題



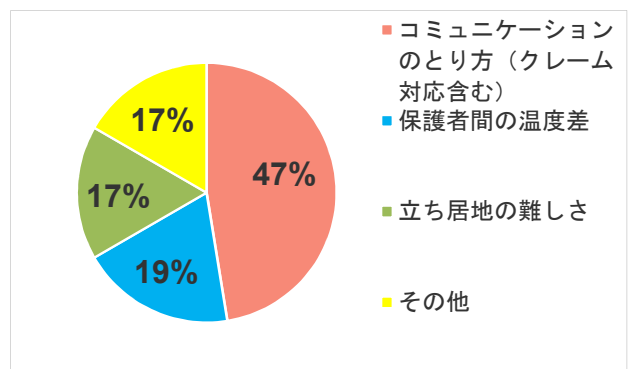
○指導方針についての課題



○生徒との関係による課題



○保護者との関係による課題



4 考察

公益財団法人日本中学校体育連盟は、近年の課題(※2)としてあがっていた「運動部活動顧問の敬遠傾向」や「顧問の絶対数不足」などに対する具体的施策として平成14年度から外部指導者(コーチ)制度を導入していると回答している。本県において、平成12年度から平成20年度にかけて大幅に外部指導者数の増加が見られる1つの要因ではないかと考えられる。また、空手道やテニスなどの専門的な指導ができる教員が少ない種目が正式に競技種目として開始され、社会体育で競技を行っていた生徒が中体連大会に出場する機会が増えてきたことも要因であると考えられる。

しかし、安易な外部指導者登録が外部指導者の急増につながり、様々な課題が見えてきた結果となっている。課題の特徴としては、「活動場所・時間」や「指導方針の違い」が半数以上を占めていることから、この部分の課題を解決するための方策を講じることが急務である。それぞれの種目で特性などはあるが、学校と外部指導者が連携し、成果を上げている例もあるので、この点を参考にしていきたい。

※2 平成23年度文部科学省による「スポーツ基本計画遂行のための関係団体ヒアリング」参照

5 まとめ

外部指導者制度の必要性は、外部指導者自身も強く感じており、登録人数は昨年度よりさらに増加している。顧問の負担軽減や専門性・技術力向上、顧問と違った視点での指導や子どもは地域で育てるという熱意など、協力的・好意的に支援していただいている。時間の都合がつく限り、指導に足を運んでくださっている多くの指導者の姿が見られた。

しかし、学校の施設設備等のハード面や部活動規則等のソフト面に課題があると感じている外部指導者も多かった。また、顧問・生徒・保護者との関係や連絡体制に改善を求めている部分も見られる。学校や部活動への方針を問題提起される方もおり、今後の方針について外部指導者と考える機会を設けることも必要であると感じた。

学習指導要領において部活動は、学校教育の一環として位置づけられ、地域や各種団体と連携した運営上の工夫を求められている(※3)。現在、本研究によって明らかになった課題を少しでも解決し、円滑な部活動の運営を進めるために、この研究をさらに深めながら、本県の部活動に携わる指導者すべてに周知徹底していくとともに、以下のことに取り組んでいきたいと考えている。

- ①機能的役割を果たした中体連研究部の充実した運営
- ②外部指導者登録制度を活用するための更なるシステムづくり
- ③「福岡県中学校体育連盟としての制度導入に際しての統一見解」の周知徹底
- ④本研究において明確化された課題の改善を図るさらなる研究

最後に、昨年度の調査と比較すると、学校側が感じている課題と外部指導者が感じている課題に大差はないように感じられた。連絡体制を密にし、活動方針を共通理解し、双方の連携をうまく取ることができれば、部活動のさらなる活性化につながると考えられる。

※3 学習指導要領総則第1章第4の2(13)、中学校学習指導要領解説(保健体育編)第3章の3